平成２６年度　第２回　山梨県文学館協議会　会議結果記録

日　時：　平成２７年２月２５日（水）

場　所：　県立文学館研修室

参加者：

●委員　高野美智子、蔦木雅清、向山文人、植松裕二、池田尚隆、小菅健一、
数野強、赤坂治績、上野美穂子、乙黒幸江、中込富夫

●県教育委員会　中澤文化振興監、田中学術文化財課長、藤本学術文化財課主事

●県文学館　三枝館長、酒井副館長、小俣学芸幹、大関総務課長、高室学芸課長
土橋資料情報課長、名取総務担当主査、
保坂学芸員（学芸担当リーダー）、小林教育普及担当主幹教育主事、
水上資料情報担当副主幹

●指定管理者　山本ＳＰＳやまなし支配人、金原ＳＰＳやまなし副支配人

司会　酒井副館長

議事（議長　数野会長）

（１）平成２６年度事業実績について

（２）平成２７年度事業計画について

（３）その他

議事録

◎県教育委員会文化振興監挨拶

◎会長挨拶

◎館長挨拶

◎事務局職員紹介

◎事務局から会議資料により、議事（１）～（２）を説明

●会長

ただいま、事務局から、学芸、教育普及、資料情報、また、指定管理のＳＰＳやまなしの活動について説明がありました。

どちらからでも結構ですから、質問、意見などありましたらお願いします。

●Ｂ委員

説明を聞きまして、いろいろと工夫していることに敬意を表します。私は、諸所の図書

館に関係があり、司書に文学館との連携に聞いたことがあります。すると、いろいろと資料は送られてくるが、特に連携はしていないとの返事でした。繋がりも無いということで、残念に思いました。文学館は拠点ですから、連携を深めることで裾野を広げられると思います。具体的にはアンケートをとるとかなどですが、いかがでしょうか。

●会長

ただいまの意見は、市町村の図書館との連携と言うことかと思いますが、いかがでしょうか。

●事務局

県立図書館とは、館長の対談など、かなり連携があるのですが、市町村図書館とはなかなかできていないのが現状です。資料情報課の職員は司書ですが、何かあるでしょうか。

●事務局

やはり、県立図書館との連携が主でして、例えば今年度では、山崎方代に関する展示を双方で開催したおりに、お互いのチラシを配布するなど、また、当館が「本のおしゃれ展」を開催した時に、図書館のサテライトで関連した展示をやってもらい、そのときもお互いの施設紹介などをやりました。

●G委員

ちょっと角度が違うかもしれませんが、よろしいでしょうか。

私は、大月に住んでいますが、地元の図書館に目的の本が無いときは、県立図書館を利用します。この場合、図書館同士では本の貸し借りをしてくれるので、甲府まで来なくてもよいのですが、文学館はそのようなことが出来ないので、ここまで来なくてはならない。そうすると私の場合、立川の国文学研究資料館に行ってしまった方が早いのです。

県立図書館に行かなければならないとき、私は辺鄙なところに住んでいるので、自動車で行くのですが、駐車場は一時間しか無料で駐められないのです。この前、図書館の方に聞いたら、延長サービスはしていないとのことでした。そのようなことで、私の場合は東京の方へ行かざるを得ないのですが、そのあたりで何かできないものでしょうか。

●事務局

文学館の収集する資料は、基本的に収集や展示をするもので、貸し出しはしていません。図書館と同じように貸し出しはできませんが、閲覧室に展示する資料は、手にとって利用することができます。私も住まいが上野原なので、先生のおっしゃることもよく分かるのですが。

もう一点、先ほど説明のあった、教育普及担当の移動文学館ですが、義務教育課が主催

する校長会にチラシなど説明資料を持って行くのですが、他の機関も同じことを考えていて、説明資料が膨大になってしまって、校長先生も全てに目を通すことが困難な状況でした。私が懇意の校長先生たちに紹介したところ、そんなものがあったのかといった反応で、逆にこれを足がかりに売り込んでいこう、生徒だけでなく指導者にも周知することが大事であると考えているところです。繰り返しになりますが、文学館の所蔵資料は貸し出しが出来ないということをご理解ください。

●会長

私は、県立図書館の協議会委員をしていますが、県立図書館は市町村立図書館との連携がまず必要と考えています。移動文学館については、文学館の資料が市町村に行くよう、市町村立図書館にも働きかけているようですが、市町村立図書館と文学館の連携というのは、これからといった印象です。これからの方向性をどのように考えているでしょうか。

●指定管理者

市町村立図書館との連携はできていない状況ですが、指定管理者としては、書店商業組合と連携しておりまして、組合加盟の書店には、文学館開催展示会の関連コーナーを作ってもらっています。今後、市町村立図書館にも同様のコーナーなど作っていただくよう働きかけて行きたいと考えています。

●事務局

関連して、先ほどの話の補足です。資料の貸し出しは出来ませんが、パネル類は貸し出しができます。今年度の例でも甲府市立図書館に貸し出ししていますし、村岡花子関連では、市町村立図書館で開催する講演会の講師として、南部、御坂で話をしました。このような連携がより盛んになればよいと思います。

●Ｉ委員

図書館にいた関係で、連携のことにですが、例えば村岡花子企画展で、先ほども話にでましたが、関連コーナーを作って、関連する蔵書を、子供用から一般のものまで、目立つ場所に展示して貸し出しもしています。村岡花子のような大きい企画の場合は別ですが、例えば、田中冬二のような場合、チラシを他の公共図書館に送っても、沢山あるチラシの中に埋もれてしまって、気づかないことがあります。それは図書館側にも問題がありますが、連携を深めると言う意味では、こういう企画展を開催することを図書館側に知らしめて、コーナーというのは、しょっちゅう変わるものですから、もっといきいきしたものに変えることができると思います。文学館が資料を貸し出すことができないのは、分かりますが、資料を観にいこうと思わせる連携はできるのではないかと、反省もこめて感じました。

●会長

私感じますのは、文学館や博物館の資料は貸し出すことは出来ないのですが、これからはデジタル化の時代ですから、県立図書館もさかんにやっていますが、文学館の資料も、これからだと思いますが、電子化すれば、赤坂委員の言われたことも解決すると思いますので、この方向性を模索することが重要かと思います。他にいかがでしょうか。

●Ｃ委員

来年度の企画展は「雲母」創刊１００記念展ということで、常設展も「牧水生誕１３０年」など充実して結構だと思います。来年度というか今年は、戦後７０年の記念の年なので、閲覧室の企画で「児童雑誌が描いた戦中・戦後」が予定されていますが、他にも、太宰や井伏が甲府空襲のことを書いているので、そういったものも展示・紹介できればと思います。

●事務局

「児童雑誌の戦中・戦後」の企画は、夏休みの期間に予定しています。年２回、一般向けに書庫見学をしていますが、その際にも、児童雑誌を紹介し、今では考えられないような、戦争を鼓舞する表現だとか、戦後は物資が乏しく、非常に質の悪い紙で作られた雑誌を見ていただくなどしていますが、日頃皆さん目にする機会が少ないと思い企画しました。

●Ｄ委員

今の向山委員の話にもありましたが、今年は戦後７０年というのがキーワードです。企画展はテーマが重要ですから、来年度の企画の中で、これに関連したものが少ないということを向山委員も気にしたと思います。戦後７０年の区切りの年ですからこれを大切にして企画していただければ、より多くの県民が来館するのではないかと思います。

それと、３点ほどあります。４月に予定されている三枝館長と藤巻亮太さんの対談は、とてもよい企画で私も参加したいと思いますが、若い人達が文学館に来るきっかけになると思います。こういったものを手始めに、辻村深月さんとか若手で直木賞をとっている方、この間も山梨学院で、三枝館長は辻村さんとご一緒だったと思いますが、こういった方にも文学館によっていただいて、若い人が来館するきっかけになっていただきたいです。

次は質問ですが、来年度予定している俳句大会は、県内、全国どちらを対象としているでしょうか。また、俳句大会は他にもありますが、これらとどう差別化を図っていくか。今年度は三枝館長の短歌教室を開いておられますが、その反響はいかがであったか。また来年度は５～６月に初心者短歌教室が予定されていますが、どのような展開を考えているのか、お聞かせください。また、昨年度の文学散歩で、富士川町の萬屋酒造店に行ったとのことですが、今年の予定を教えてください。それと、先ほどの短歌教室に関連しまして、

俳句の方も短歌と同じように、こちらで教室が開かれれば、俳句の結社などに入るのも敷居が高いのでよろしいかと思いました。

●指定管理者

俳句大会についてお答えします。俳句大会は一昨年度の特設展の「飯田蛇笏展」の際にも開催しておりまして、応募数が約７００、主に県内からですが、関東圏からも応募がありました。今回はより規模を大きくしたいと考えておりまして、どこまで広報できるかは検討段階ですが、全国展開したいと考えています。

差別化としましては、今回の選者に「俳句百景」の企画展の監修者になっていただき、企画展関連のイベントであるといった点が、また、俳句雑誌からも興味があるということで問い合わせがありますので、これらの協力も得たいと考えています。一番の目的は企画展を盛り上げることなので、そこに結びつけていければと思います。

●事務局

続いて、文学散歩についてお答えします。かつて文学散歩は、企画展のテーマに合わせて実施していました。山梨出身あるいは山梨にゆかりのある作家が企画展のテーマだったので、可能だったのですが、それが一通り済みまして、数年前からは、企画展とは別の視点で実施することとなっています。どこを訪問先に選ぶかを含めてＮＰＯに委託しますので、来年度はどこへ行くというのは決まっていません。

●事務局

今年度の短歌教室は、２０名の定員に対し７９名の応募があり、大変好評でした。この企画には二つの大きな目的があります。一つは、全くの初心者をターゲットというか応募条件にして、短歌の裾野を広げて、文学に親しんでいただくこと。もうひとつは、４回の講義で文学館に来ていただき、文学館に親しんでサポーターになっていただくことです。この２つの目的は充分達成されたと考えています。初心者だったのが、４回の講義で大きく成長して、中には今後の具体的な取組を考えている方もおり、結社に入るとか、新聞に投稿するとか、館長からアドバイスを行っていただきました。また、文学館が楽しいところで、今後も同様の企画を続けて欲しいと言う声も聞かれました。このような経緯から来年度も同様に４回の短歌教室を予定しました。

●会長

戦後７０年の取組については、いかがでしょうか。構想か何かありますか。

●事務局

おっしゃることはよく分かるのですが、難しいのが現状です。何かにかけて、戦後７０

年を取り上げることは可能ですが、一方では、最近、戦争を煽るような作品が増えているようにも思えます。非常に微妙なことになりかねない、そこをどう扱うか、慎重に考えていかなければならないと思います。ただ、全く無視は出来ないということもあり、資料情報課の企画で、児童雑誌を企画したところです。例えば田中冬二にかけて、戦後７０年をやるのも難しいと思います。

●館長

とても大切な節目です。短歌雑誌などでは、８月に向けて戦後７０年をどう振り返るか、今から特集の準備に取りかかっています。たぶん俳句でも、文芸雑誌でも同じような状況かと思いますが、そういうことからすると、文学館も正面から取り組まなければいけないとも思いますが、同時に今年は「雲母」１００年でありまして、どちらが大事かというと、１００年というのは、とても大きな節目です。そんなことで、戦後７０年が企画の大きな目玉にはなっていませんが、特別講座というようなことができるかもしれません。個人的な話ですけど、私は、昭和２０年７月の甲府空襲の時、１歳半で母親に背負われて、母親は左手に三男の、右手に次男の手を引き、焼夷弾が落ちる中を富士川小学校の裏の川に逃げたそうです。私は記憶はないのですが、その時の話を母親から、繰り返し繰り返し聞かされて、半分錯覚のように、焼夷弾が花火のように破裂する様が、私の戦争の原風景のように思えているのです。甲府空襲は規模が大きかったので、何らかの形が出来るか出来ないか、出来たらいいなと、ちょっと考えてみます。全体のスケジュールの中で無理ということになるかもしれませんが、大切な検討課題とさせてください。

●Ｇ委員

蔦木委員は文芸協会の方ですが、協会の方で、戦後７０年に関する企画を考えているでしょうか。

●Ｂ委員

今年度の活動については、これから総会がありますので、その折りに何か出てくるかもしれません。

●Ｇ委員

館長のお話が聞けるということであれば、大変結構ですが、やはり展示となると、準備も大変だと思います。何か講演会ができて、文芸協会でも企画があれば、連携できればいいかなと思いました。

●Ｂ委員

文芸協会は「イマジネーション」という雑誌を出してまして、来年度の特別企画は決ま

っていないのですが、その中に、エッセイということで会員に戦後７０年について投げかければ、何か出てくるかもしれません。今のところは全く白紙です。

●Ｇ委員

質問です。レミオロメンの藤巻さんと館長の対談の企画はとてもおもしろいと思います。最近、若い人と話をすると気づくのですが、若い人が本当に本を読まなくなっています。私も物書きの端くれですから、売れなくて苦労しているのですが、若い人はスマフォからの情報で済ましています。今年の文学館の企画をみると、レミオロメンの藤巻さんとの対談もやるし、リーディングシアターもやるし、映画もやるし、落語もやる。僕は元々芝居の人間なので、芸能を使った企画がおもしろいと思いますが、文学館の講堂の稼働率はどのくらいでしょうか。芸能を使った企画では、私も協力できると思いますし、若い人の文学への関心を高められると思います。

●指定管理者

ご意見ありがとうございます。講堂の稼働率ですが、概ね３～４割ほどです。ＳＰＳやまなしの来年度の企画は、先ほど説明したように「新しい魅力　新しい楽しみ方」と打ち出しています。レミオロメンの藤巻さんの企画もそうですが、同様の取組をもう少し展開できないか、若い人に多く来てもらうような工夫ができないか考えています。落語につきましても、来年度は文学的なアプローチとして、文学に関する創作落語ができないかなど検討しています。

●Ｅ委員

資料を拝見して気づいたのですが、４頁の常設展の入場者数が、２４年以降伸びています。２６年は村岡花子展効果で特別と思いますが、２４、２５と伸びたのは何かあるのでしょうか。

●事務局

今年度に関しては、昨年度末から小中高生の入館料が無料になったことも大きく影響しています。展示会を見て感じたことをまとめるような授業もありますので、そういう若い世代の来館者が増えていることは間違い有りません。

●事務局

常設展示室は２１年度にリニューアルしています。この時、飯田蛇笏、龍太記念室もでき、そのようなこともあり、２１、２２と伸びました。２３年度は震災の影響で落ち込みましたが、その流れが２４、２５と続いているように感じています。

●Ｅ委員

企画展の方につい目が行ってしましますが、常設展というのはとても大事ですから、こうやって来館者が増えているのは、皆さんの努力の成果と思います。今どこの施設でもインターネットで情報提供してますよね。ですから、常設展の紹介でも、ここがポイント、ここを是非見てくださいというようなＰＲをするとさらに入場者が増えるかと思います。それから、もうひとつ、ここはロケーションが素晴らしいですよね。私も時間があると、公園を一周しますが、それらの見どころや、周辺のお店の情報など、美術館の情報も合わせて発信して、文学も美術も公園も楽しむリピーターが増えてくれば良いと思います。

●会長

ここは、梅の時期も、バラの時期もいいです、私は桜の時期は必ず花見に来ます。

●Ｆ委員

私は昨年度から参加していて、このように、昨年度の実績と来年度の計画を説明する資料を拝見していて、中長期ビジョンというか、文学館がどういう将来構想を持っているのか見えてこない感じがします。私も以前に文学講座を担当したことがあり、担当職員が良い企画にしようと大変苦労されていることは、よく承知しています。その努力が何を目指しているのか、特に今回はレミオロメンの藤巻さんを呼ばれるというのは、つまり文学だけでは無くて、文学館をハブとして、そこから枝葉を伸ばしていくのか、私も学生を教えていて、文学だけに興味を持つ学生は減っています。でも文学の魅力を授業で教えると伝わるんです。食わず嫌いのところもありますが、先ほど赤坂委員がおっしゃったように、若い人はスマフォで電子書籍も読めますから、昨年の「本のおしゃれ展」などで、装丁も含めた本の魅力を、実際本を手にとって感じることもあります。そうすると単に文学だけで無く、美術やデザインをやっている人が新たな刺激を受けることもありますし、先ほど講堂の稼働率の話がありましたが、文学が根っこになっていれば、井上ひさしさんのように演劇をやるとか、でも、ただ単に芝居をやる場所を提供するのではなく、文学館が発信母体となって、演劇のイベントを仕掛けてもいいし、県内出身の映画監督とか関係者も沢山いますから、何か出来るのではないか、文学をハブとしていろいろなものに繋げていく、最近は、文学者を超能力者に見立てたストーリーの漫画が若い人に受けているので、若い人はこれらを通して、文学者の名前や文学作品の名前を覚えていくので、将来的には文学を扱った漫画展をやっていくくらい舵を切ってもいいかなと思います。一つの企画展を魅力的にすることも大切ですが、３年先５年先に文学館がどういう方向に向かっていくのかについて意見をくださいということであれば、委員の皆さんもいろいろと若い人たちに触れる機会が多いと思いますので、こういうやり方があるといった意見を出せると思います。大所高所の考えの中で、一つ一つの企画展がどういう意味を持っているのかが分かれば、広い世代にも関心を持ってもらえると思いますので、そのような長期のビジョンがあれば

お示しいただきたいと思います。

●会長

ただいまの意見に対して、事務局の方から何かありますか、確かに中長期ビジョンは必要と思います。

●館長

これは館長というより、個人的な意見として聞いていただきたいのですが、文学館はやはり文学が核でなければならない。でも今の文学は、今までの文学の枠組みでは収まらなくなっている。でもそれを続けていかなくてはならないというのは皆の課題だと思います。今回の藤巻さんとの企画は、文学創作教室の一環としてやりますから、今年度に津島佑子さんは小説部門を担当してくれましたが、私の教室は詩の部門になります。あくまでも文学の中の詩ということですから、その専門家が講師でもいいのですが、今の若い人に詩の魅力を知ってもらうとすれば、例えばＪポップの詩の中にも優れた作品があります。では、Ｊポップの作詞者はどのように言葉を構築しているかというと、一見文学の王道とは違ったところから、しかし文学の肝心のところをアドバイスできるのではと考えています。

つまり、文学を核としていないと文学館とは言えないのだけれど、文学館がこれまでの枠組みにとらわれ続けることが健全なことかというと、やはり時代の趨勢の中で言うと、難しいことですから、敷居を低くあるいは緩くして、文学の核に近づけていく、そんな活動を続けていくことが、これからの文学館の大きな課題かと思っています。

長期のビジョンを作るというのは大仕事ですから、なかなかうまくは出来ないと思いますけど、一つ一つの企画を変えていく中で、おのずから文学館が目指すもの、方向が見えてくるとういことで、とりあえずはやっていきたいと思っています。

●会長

ありがとうございました。やはり文学館は文学中心として、ロマニズムの世界をどう築いていくかだと思います。そういう中で若い人にもうったえていける長期的なビジョンなど、館長さんを中心に考えていただきたいと思います。

●Ｊ委員

いろいろな企画を用意していただいていますが、私は高校教員なので、高校生が教育普及事業に参加させていただくなど、お世話になっています。昨年、一昨年ととても充実していたと思います。昨年度は詩をテーマに関東大会がありまして、甲府西校の生徒が最優秀賞を、都留高校の生徒が優秀賞を受賞し、佳作に甲府一高の生徒が入りました。受賞した両校は文学館の創作教室にも積極的に参加していますので、その効果が出たのかなと思っています。県の高等学校の文化専門部でも、高校生の文芸集を出していますが、それに、

小説、詩、短歌、俳句、評論で、過去最高の８０００を超える応募がありました。これも、文学館と高校の文芸部の繋がりができていたからかと思いました。

先ほど、指定管理者さんからファミリーミュージアムの話がありましてが、是非進めていただきたいと思います。私も県立図書館に関わったことがありますが、あそこも静かにすべき場所と話をしてもいい場所とあり、堅苦しくないよう工夫しています。文学館も同じように検討していただければと思いました。

どこの県でも県立図書館は文学館と同様に保存の役割を担っていますが、市町村立図書館は、閲覧のように地域住民へのサービスがメインになります。文学館は博物館と同様に、資料の収集と保存が役割のウエィトを占めていますが、どこまでサービスを充実できるかが課題と思います。会長から話がありましたが、収蔵品の電子化は避けて通れないと思いますので、合わせて検討をお願いします。

●H委員

資料を拝見して、沢山の取組をされていると思いますが、私がいつも思うことは、若者層へ文学が浸透してほしいということです。資料の１０頁に、小中高校生への取組状況がありますが、若者層ということで、さらに、専門学校、短大、大学生への取組の状況を教えてください。

ファミリーミュージアムについてですが、昨年の「村岡花子展」のときは、展示室に多くの人がいて、いろいろと感想の会話が聞こえてきました。周囲に人の声があるのも暖かみがあって、鑑賞が終わって楽しい印象が残りました。文学館の展示室はとても静かな所という感じがありますが、あまりそれにとらわれなくてもいいのかと思います。

文学館を日常的なものにしたいと考えているとの説明もありましたが、駐車場と公園敷地との間の高い塀が無いほうが、文学館に足を運びやすいのではないか、親しみを持ちやすいのではないかと思いました。全部でなくても部的に塀を無くすくとはできないのでしょうか。

美術館と文学館は門が一緒で、そこから左右に分かれて、だいたい美術館に行かれる方が多いのですが、文学館はそこからはるか遠くの方で、文学館の建物にも垂れ幕はかかっていますが、遠目には見にくいので、美術館との分かれ道のあたりに、文学館を広報する案内表示をして欲しいと思います。美術館を訪れた人にも文学館にも行ってみようという気になろうかと思います。

●事務局

小中高校以外にも広報しています。来年度ですが、看護学校の利用申し込みもありますので、大いに利用していただきたいと思いますし、いろいろなイベントで人手が足らないときに、大学生にボランティアをお願いしていますが、その学生達が、また、展示会に来てくれるといった繋がりもあり、数は少ないのですが、このように小中高校生だけでなく、

いろいろな層に発信をしていますので、少しずつでも効果が出てくれればと考えています。

●指定管理者

ファミリーミュージアムですが、全国的にみても、美術館、文学館、博物館などは、中高年、高齢者の来館者が圧倒的に多いという現状があります。なかなか若年層に来てもらえない中で、どうしたら来ていただけるかということで、アンケートをとると、子供を連れての来館は、子供が騒いだり、走ったりで、周囲の目が気になり、気が引けるという声が多かったです。逆に言いますと、幼年期から美術館等に親しんでいないので、大人になっても来館する気にならないのではと考えられます。小さなお子様も家族ぐるみで楽しむことで、将来の利用者を増やせるのではないかということで、ファミリー向けの時間帯を設けて、好評であればさらに広げていきたいと考えています。

●会長

その他の、塀や案内表示については、即答は無理かと思いますので、引き続き検討と言うことでお願いします。

では、意見等も出尽くしたようですので、議事（３）の「その他」に移ります。事務局から何か説明はあればお願いします。

●事務局

《平成２７年４月２日にオープンする「山梨近代人物館」について、コンセプト、施設概要、展示内容等について説明》

●事務局

《総務課から、以下の３点について報告》、

・平成２７年１月３０日に、国の会計検査院の検査があり、過去５年間に国の交付金が充てられた事業について検査を受けた。文学館では、９事業で９８００万円ほどが対象であった。いずれも問題なしの結果であった。

・飯田龍太文学碑の除幕式が平成２６年１１月１１日に行われた。文学碑は、建設委員会から県に寄贈され、既に設置されている飯田蛇笏文学碑とともに、文学館所蔵の文学資料として登録することとなった。

・美術館西側の市道「下河原東線」の北側（美術館通りへの接続部分）３０mほどは歩道が無く、地域住民から市に対し、歩道設置の要望が以前からあった。市と県土整備部（芸術の森公園管理者）、文学館で協議し、公園の杭の外側にある垣根を撤去し歩道を設置することとした。文学館利用者の安全性向上も期待できる。

●会長

ただいまの報告について、質問・意見はありますか。なければ、一号議案、二号議案も含めて、承認ということでよろしいでしょうか。

＜出席委員が、３議題について承認＞

●会長

他に、どなたか意見がありますか。他に意見が無ければ、これにて終了とします。